

『論文発表』投稿規定及び執筆要領

- 「論文発表」として発表される論文は、『数学教育学論究 臨時増刊 秋期研究大会特集号』に掲載されます。
- 原稿締切り 2016 年 7 月 24 日（日）
※締切りは厳守してください。
※2013 年度から E メールへの添付による PDF ファイルの提出のみになりました。
詳細は下記に従ってください。
- ページ数 「論文発表」A4 で 8 頁

I 投稿規定

1. **投稿資格** 投稿される研究論文の著者（連名の場合は筆頭著者）は、日本数学教育学会の個人会員とする。ただし、投稿時に非会員でも、投稿と並行して本学会への入会手続きを行えば、投稿できるものとする。
2. **投稿論文** 投稿論文は、算数・数学教育についての基礎的・科学的な研究論文であり、日本語または英語で書かれた独創性のある未発表のものに限る。
3. **論文の長さ** 投稿論文の長さは、図表や資料等を含めて 8 頁（1 頁 22 字×2 段×42 行）で要約を含むものとする。
4. **論文の作成** 論文の作成については、II に定めた「執筆要領」による。
5. **論文の投稿** 論文の投稿に際しては、次の(1)と(2)を作成し、添付して、秋期研究大会事務局に E メールで送付する。送付の仕方に関する詳細については、III の「提出方法、部数、送付先」の各項を参照のこと。なお、原稿はそのまま写真製版して印刷する都合上、ワープロで作成した原稿を送付すること。
 - (1) 原稿の PDF ファイル（氏名の記入のあるものと記入のないものを各 1 部）
 - (2) 発表者カード（エクセルファイル）
6. **論文の査読基準** 研究論文は、論究論文の査読基準を準用し、以下の観点から査読を行う。
 - ア. 投稿規定を満たしているか、
 - イ. 独自性が認められ、しかも関連する先行研究を十分に踏まえているか、
 - ウ. 研究目的は明確に記述されているか、
 - エ. 研究方法は目的の達成にとってふさわしいか、
 - オ. 研究の結果が優れており、その考察は十分であるか、
 - カ. 論文の構成・論旨が適切であり、引用・参考文献は適正であるか。

7. **論文の審査等** 研究論文は、第6項の基準で、論究部が委嘱した3名の審査委員による査読を行い、その結果に基づいて採否等の決定を行う。そして、「採択」、「条件付き採択」（軽微な修正のみを求める場合に適用）、「口頭発表あるいはポスター発表に変更」、「不採択」のいずれかの結果を投稿者に通知する。

審査の結果、「条件付き採択」となった場合、修正を要求されている箇所のみを修正して、論文を再提出する。その後審査を経て、掲載が決定する。

また、「口頭発表あるいはポスター発表に変更」となった場合、「口頭発表」（2頁または4頁）または「ポスター発表」（1頁）に変更して、審査を経て発表することができる。

なお、査読の結果は9月上旬に論究部長名の文書で連絡する。査読の結果を反映させた原稿は、9月26日（月）必着で事務局までEメールで送付すること（氏名の記入のあるPDFファイルを送付する）。（上の文書の通知から口頭あるいはポスター発表の原稿提出までは、あまり日数がありません。予めご承知おき下さい。）
8. **異議の申し立て**

投稿者は、投稿論文の査読結果について異議がある場合、学会事務局（論究部宛）に対して文書で申し出ることができる。その取り扱いは論究部で決定する。
9. **二重投稿の禁止** 投稿した研究論文を同時期に他学会誌等へ投稿することはできない。
10. **著作権の帰属** 掲載された論文の著作権は、別に定めた「著作権規定」に基づき、日本数学会に属するものとする。
11. **筆頭著者としての発表件数の制限** 筆頭著者としての発表は、論究部会の決定により、論文発表、口頭発表、ポスター発表を通して1件のみとする。
12. **別刷の希望** 別刷の希望がある場合は、各自で、印刷所に直接申し込むこと。また、その実費を負担すること。

II 執筆要領

1. **原稿の書式** 原稿はA4判の縦置き横書きとし、ワープロを使用し、22字（字送り10.35p）42行（字送り16.8p）の2段組で印字したものとする。別紙の書式に従って執筆する。原則として、ホームページ掲載のテンプレートをダウンロードして使用すること。

本文のフォントは、MS明朝体10.5ポイント、見出しはMSゴシック体10.5ポイントとする。句読点は「、」と「。」を用いる。英字についてはTimes New Romanを使う。原稿をそのまま写真製版して印刷する都合上、余白の長さ（上30mm、下18mm、左右20mm）についても厳守すること。
2. **標題の字数と書式** 標題は40字以内とする。副題がある場合、副題は30字以内とする。また、標題はMSゴシック体18ポイント、副題は14ポイントとする。
3. **標題の形式** 論文の標題は、日本語で記す。ただし、「発表者カード」には、日本語と英語の両方の標題を記すこと。
4. **要約の作成** 要約は460字（46字10行）以内とし、研究の目的、方法、及び、主な結果が分かるように簡潔に明瞭にまとめる。

5. **キーワードの作成** キーワードは3つ以内とし、合計で15字程度とする。
 6. **文体** 日本語の文体は「である」調とし、常用漢字ならびに現代かなづかいを用いること。
 7. **見出し番号の付け方** 章、節、項、等は番号と標題をつけ、系統だてて配列する。見出しの番号は、次の順とする。

章の見出し番号1, 2, …, 節の見出し番号(1), (2), …, 項の見出し番号①, ②, …
 8. **表・図の番号** 表・図の番号は、それぞれ、表1, 表2, …, 図1, 図2, …のように通し番号をつけ、表や図の標題とともに入れる。表の通し番号と標題は表の上側に、図の通し番号と標題は図の下側に書くものとする。
 9. **引用・参考の仕方** 文章を引用する場合には、引用部分を括弧「」で囲んで引用の部分が分かるようにし、そのあとに、括弧（）を用いて著者と発行年と引用ページを入れる。引用ではなく参考の場合には、参考部分の後に、括弧（）を用いて著者と発行年を入れる。

例：[引用]「…である」（川田，1999，p. 4）。[参考]…であった（山田，2000）。
 10. **引用・参考文献及び註の記載形式** 引用・参考文献は論文の末尾にまとめ、次の形式で示す。

引用・参考文献や註のフォントを小さくしたり行間を詰めたりすることは認められない。
(個々の具体的な書式については、近年の数学教育学論究の論文を参考にすること.)

単行本の場合：著者名．出版年（西暦）．書名．出版社。
学会誌や雑誌等の場合：著者名．出版年（西暦）．「論文名」．学会誌名，巻，号，始ページ－終ページ。
 11. **引用・参考文献の記載順序** 著者の姓の英文標記に基づいてアルファベット順とする。
 12. **表・図等の扱い** 原稿をそのまま写真製版して印刷するので、同寸同大で作成する。また、製版に際して縮小するので、86%縮小した後でも十分読める大きさを確保するようにする。
 13. **英文での原稿執筆** 以下の3点に留意の上、執筆する。
 - ① 日本語バージョンの執筆要領を原則とする。なお、本文の基本フォントはTimes New Romanの10.5ポイントとする。
 - ② 2段組は行わずに執筆する。なお、余白等は日本語バージョンに従う。また、1頁の行数は日本語バージョンと同様に42行とする。
 - ③ 要約は、日本語バージョンに従って、その部分を日本語で作成する。
 - ④ 論文の標題は、英語と日本語の両方を記す。日本語については、論文の中ではなく「発表者カード」に記すこと。
 14. **ページ番号** 原稿にはページ番号は付さないで下さい。
- ※ 書式の改変は一切認められない。上記1～14の要領に従っていない場合は、その時点で「不採択」と判定される場合があるので注意すること。

III 提出方法，部数，送付先

1. **提出方法，部数** 原稿は、PDF ファイルに変換し、Eメールに添付して提出する。

「氏名の記入のあるPDFファイル」「氏名の記入のないPDFファイル」を各1部、「発表者カード」のエクセルファイルの合計3つのファイルを作成し、添付する。

2. **論文原稿ファイル名・Eメールの件名** 「論文原稿ファイル名」と「Eメールの件名」には、「発表形態」「第一希望の分科会番号」「氏名」「タイトル」（氏名記入のあり・なし）を記載する。

（例）山田太郎さんが分科会2で論文発表を希望する場合

【添付するファイル】

論文発表2（山田太郎）「数学教育における問題解決の研究」（氏名記入あり）
論文発表2（山田太郎）「数学教育における問題解決の研究」（氏名記入なし）
発表者カード（山田太郎）

【Eメールの件名】

論文発表2（山田太郎）「数学教育における問題解決の研究」

※ Eメールの件名には、（氏名記入のあり・なし）は記載不要です。

※ 分科会については、既に発表申込み時に記入をお願いしていますが、変更がある場合は、投稿時の希望分科会を記載して下さい。

<分科会>

1. 数学教育学論，研究方法論
2. 教育課程（目標・評価）
3. 問題解決①（問題解決，指導法等）
4. 問題解決②（数学的な考え方，活動等）
5. 数と計算・代数
6. 図形・幾何，測定
7. 関数，確率・統計
8. 言語とコミュニケーション
9. 証明（説明，論証を含む）
10. テクノロジー
11. 数学教育史・数学史の教育活用
12. 教師教育・国際協力
13. 数学学習・指導における心理学的研究
14. その他

3. **論文原稿ファイル送付先** 論文原稿ファイル（PDFファイル2種類）と発表者カード（エクセルファイル）を，Eメールに添付して下記の事務局宛に送付する。

【原稿・発表者カード提出先】

日本数学教育学会第49回秋期研究大会実行委員会事務局宛
mathedu@hirosaki-u.ac.jp

※ Eメールによる原稿ファイル，発表者カードの受理後に，受領メールを事務局から返信します。受領メールの返信がない場合，メールを受け取れていない可能性がありますので，お尋ねください。